

教育研究業績書

2025年10月20日

所属：教育学科

資格：講師

氏名：岡田 朱世

研究分野	研究内容のキーワード
保育学、幼児教育学	保育者論、保育内容・環境、保育実践研究
学位	最終学歴
博士（教育学）	武庫川女子大学大学院 臨床教育学研究科臨床教育学専攻 博士後期 課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. グループワークを活用した授業の取り組み	2021年4月1日～現在	協同的な活動の理解を深めるために、4～5名の小グループでテーマについて話し合い、他者とコミュニケーションと取ることや考えを言語化して伝える活動を取り入れている。
2. ICTを活用した授業への取り組み	2020年4月1日～現在	ポートフォリオ共有アプリPolly、GoogleClassroomを用いた。課題提出や自宅学習、さらに授業アンケートとの活用もを行い、学生と教員間のやりとりのみならず多様な価値観の共有と効率的な学びにつながった。
2 作成した教科書、教材		
1. 大阪キリスト教短期大学実習ファイル	2023年3月31日	教育実習、保育実習の事前事後指導で用いるテキストの作成を行った。主に保育実習（保育所）に関する箇所を担当した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 中学校における職業学習の講師	2020年1月	尼崎市立中学校の職業学習において、保育士の仕事について紹介する講義を行った。
2. 保育実習に関する指導	2016年4月から2020年3月	保育士養成課程、看護師養成課程を有する大学等からの実習生の受け入れをし、保育所業務に関する指導や実習記録の添削・指導等を行った。
4 その他		
1. 実習指導者認定講習 修了	2022年3月	全国保育士養成協議会が主催する実習指導者認定講習を受講、修了し認定を受けた。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 幼稚園教諭専修免許状	2015年3月31日	
2. 幼稚園教諭一種免許状	2009年3月31日	
3. 保育士資格	2009年3月31日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 福祉従事者新任職員研修(児童福祉・保育)講師	2024年5月及び2025年5月	兵庫県内公立・民間保育所に勤務する経験年数2年未満の保育士および保育教諭を対象とし、社会、地域における保育所・認定こども園の役割及び保育士・保育教諭に期待される姿勢・視点を理解するとともに、保育現場での意欲的な実践につなげることを目的とした講義を行った。
2. 保育士等キャリアアップ研修講師	2024年2月1日から2024年3月31日	保育士等キャリアアップ研修のうち乳児保育分野の研修講師を担当した。 オンラインでの研修方式も活用しながら、乳児保育の意義や乳児の発達に応じた保育内容、乳児への適切なかかわり等について講義を行った。
3. 子育てひろばの講習会講師	2023年5月	武庫川女子大学子育てひろばで実施された保護者向けの講習会において「手作り玩具の魅力」をテーマに講義を行った。
4. 枚方市子育て支援研修の講師	2021年11月	枚方市の地域子育て支援拠点事業と保育所、保育園に勤務する職員を対象としたオンライン研修において、「コロナ禍とこれからの子育て支援」をテーマに講演

職務上の実績に関する事項				
事項	年月日		概要	
4 その他				
5. 大阪市立貝塚南高等学校における保育実習の講師	2021年7月		を行った。 大阪府立貝塚南高等学校において実施される保育実習の事前指導の講師を務め、保育実習についての留意点や心構え等に関する講義を行った。	
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 保育士の職能成長に 関する研究－現職保 育士への調査に基づ いて－	単	2021年3月	武庫川女子大学大 学院臨床教育学研 究科臨床教育学専 攻 博士学位論文	保育士の職能成長について、転機となる経験とに注目し、成長実感を獲得していく様相について、質問紙調査とインタビュー調査を行い明らかにした。同僚との関わりが転機となる経験として大きな比重を占め、同僚に承認されることや新たな気づきを得ることによって成長実感を獲得していくことが明らかとなった。また転機となる経験は経験の再解釈が行われることによってポジティブな経験として捉え直しがされることも示した。
2. 保育士の職能成長と その支援をめぐる現 状と課題	単	2015年3月	武庫川女子大学大 学院文学研究科教 育学専攻 修士学 位論文	保育士養成を歴史的に概観し、時代によって求められる専門性が変化してきたことを明らかにした上で、現職保育士に対する質問紙調査を実施した。研修に対する調査では、日常の保育においてすぐに使える知識の提供、保育士が仕事をするまでの視野の拡大を促すような支援、成長実感の獲得をすること。以上の3つが求められることが明らかになった。
3 学術論文				
1. 保育者養成課程にお ける保育内容「環 境」の指導法に関す る現状と課題	単	2025年3月	武庫川女子大学学 校教育センター紀 要第10号 p.60- 68	保育内容指導現状を把握するとともに、学生に保育者としての専門性を身につける授業計画を構想する上での課題を明らかにすることを目的とした。95校を対象にシラバス分析を行った結果、科目名、単位数、模擬保育の実施についてはおおむね「モデルカリキュラム」に沿った内容でシラバスが作成されていることがわかった。自然体験の有無については全体の60%に記載がされておらず、学生自身の生活体験や自然体験の不足が指摘されている状況においては、授業計画を構想する上での課題であることが明らかとなった。
2. 保育実習Ⅱにおける 学生の成長実感に關 する研究「査読付」	共	2025年3月	武庫川女子大学 学校教育センター 紀要第10号 p. 177-185	「保育実習Ⅱ」を経験した学生がどのような成長実感を得ているのかを明らかにすることを目的とし、自由記述から得られたデータを基に量テキスト分析を行った。その結果、子どもとの関わりが成長実感につながる経験として大半を占めており、子ども一人ひとりの発達や思いを考え、理解した上で学生なりにどのように関わるのかという意図をもって実践したことで成長実感を得ていることが明らかとなった。また、保育実習ⅠとⅡの比較においては、保育実習Ⅰでは成長実感を得た内容は多岐にわたっているのに対して、保育実習Ⅱでは子どもとの関わりという点に焦点が絞られていることがわかった。（岡田朱世・高市勢津子）共同研究のため抽出不可
3. 保育実習における学 生の成長実感に關す る研究	共	2023年12月	大阪キリスト教短 期大学紀要 第64 集 p.8-17	保育所における保育実習Ⅰを経験した学生を対象に、「実習を通して自分が成長したと感じること」について調査を実施した。子どもとの関わりにおいて、子ども一人一人を理解した上で言葉掛けを行い、肯定的な反応をもらうことや保育者の援助を見て学ぶことや質問をして子ども理解を深めることが成長実感へと繋がっていることがわかった。また、保育実習Ⅰの特徴として、3歳未満児の保育に関する知識・技術の修得も成長実感へと繋がっていることが明らかとなった。（岡田朱世・高市勢津子）共同研究のため抽出不可
4. 保育者養成課程にお ける再生栽培を取り 入れた授業実践の検 討	単	2022年9月	頌栄短期大学保育 者養成教育実践論 叢 第10号 p.1- 8	保育者養成課程において、「子どもと環境」の授業内で実施した、野菜の再生栽培を通した授業実践が保育者を目指す学生に対してどのような教育的效果をもたらすかを明らかにすることを目的とした。その結果、再生栽培についての知識が深まっただけでなく、栽培前には過去の失敗経験から育てられるか不安に感じていた学生が、生長を喜んだり、植物に愛着を持ったりすることがわかった。また、生長過程を写真に撮ることを課題としたことで、前日までに撮った写真と比べてじっくりと観察することが可能となり、写真を用いる効果が示された。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
5.保育者養成課程に所属する学生が子どもに飼育させたい生き物とその理由－学生の自由記述分析－「査読付」	共	2022年3月	学校教育センター 紀要 (武庫川女子大学 学校教育センター) 第7号 p. 59-70	保育士養成課程に所属する学生が子どもに飼育させたいと考える生き物が何か、そしてその意図は何かを明らかにすることを目的として、188名の学生を対象に質問紙調査を実施した。結果、学生が子どもに飼育させたい生き物は、25種類で多い順にウサギ、チョウとカブトムシ、カエルであった。選んだ理由としては、主に領域・環境のねらいと内容に関わるものが多く、他に領域・人間関係や養護のねらいと内容に関わるものも見られた。(鶴宏史・藤本勇二・岡田朱世) 共同研究のため抽出不可
6.コロナ禍における武庫川女子大学子育てひろばの取り組み「査読付」	共	2021年3月	武庫川女子大学教育学論集第17号 p.60-66	コロナ禍における武庫川女子大学子育てひろばの取り組みを整理するとともに、今後どのような支援ができるかを探索することを目的とした。その結果、コロナ対策を念頭に置いて実施した環境構成の再構成や手作り玩具を通じた取り組みが、結果的に平常時においても子どもと保護者にとって過ごしやすい場の提供につながるということが示された。また、保護者が気軽にいつでも利用できるための体作りやSNSでの情報発信などの課題が明らかとなった。(岡田朱世・加藤三保・鶴宏史・青木登子・森田美香) 共同研究のため抽出不可
7.緊急事態宣言における武庫川女子大学子育てひろばの取り組み(実践報告)「査読付」	共	2021年3月	学校教育センター 紀要 (武庫川女子大学 学校教育センター) 第6号 p. 219 - 224	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言における、地域子育て支援拠点事業(一般型)を実施する武庫川女子大学子育てひろばの取り組みについてまとめた。施設の閉館期間に、施設を利用される親子に対して、手紙の発送、電話での育児相談、SNSの活用による手遊び動画と手作り玩具の発信を行った。親子が来館できない状況で子育てひろばが果たせる役割が検討された。(鶴宏史・青木登子・加藤三保・森田美香・岡田朱世) 共同研究のため抽出不可
8.保育所における栽培活動と食育の一体化の取り組み(実践報告)	単	2020年9月	頌栄短期大学教育論叢 第6号 p. 19-27	保育所の5歳児クラスにおいて行った栽培活動から食育までの一体化的な取り組みの実践について、幼児期の終わりまでに育つて欲しい10の姿がどのように見られたかを考察した。食育に関わる領域「健康」や栽培に関わる領域「環境」に関するだけでなく、幼児期に育つてほしい10の姿全てに当たはまる姿が見られることが明らかとなった。
9.幼稚園・保育所における野菜栽培活動の現状—栽培活動と食育の関連—	共	2020年9月	頌栄短期大学教育論叢第6号 p.11-18	幼稚園や保育所での野菜栽培の栽培状況、活動状況、食育との関連について明らかにすることを目的とし、質問紙調査及びインタビュー調査を実施した。栽培されている野菜は16種類で、選択理由は「野菜の生長を知るために」「身近な野菜であるため」「苦手な野菜を食べたいと思うように」などが挙げられた。また、給食への影響としては嫌いな野菜を食べるようになることが多いことが分かった。(鶴宏史・岡田朱世・藤本勇二) 担当箇所1. 本論文の問題意識と目的、2. 研究方法
10.生き物の飼育における保育者の意図と教育的効果－幼稚園・保育所への質問紙調査を通して－「査読付」	共	2020年3月	学校教育センター 紀要 (武庫川女子大学 学校教育センター) 第5号 p. 51-60	本研究の目的は、幼稚園や保育所での生き物の飼育状況、保育者が生き物を飼育する意図、飼育による子どもの教育的效果を明らかにすることである。A市の公立幼稚園・保育所43施設の保育者を対象に質問紙調査を実施した。飼育の意図として9項目が挙げられ、子どもの教育的効果も同様であった。これらは領域・環境および領域・人間関係のねらいや内容が反映されていることが明らかになった。(鶴宏史・藤本勇二・岡田朱世) 担当箇所51-53頁
11.保育所保育士の成長実感につながる転機－公立保育所保育士への質問紙調査の分析結果を通して－「査読付」	単	2019年12月	保育ソーシャルワーク学研究第5巻 p.37-48	本研究は、保育士がどのような転機を経験することによって成長できたと実感しているのかを明らかにすることを目的とした。公立保育所保育士を対象に質問紙調査を実施。分析の結果抽出された概念は、日常の具体的な保育の取り組み、同僚との関係、職場での役割の変化と達成感、個人的な出来事の4つにまとめられた。他者との関わりの重要性も示された。
12.保育所保育士の職能成長の捉え方－現職保育士に対する質問紙調査の分析を通して－「査読付」	単	2016年3月	武庫川女子大学教育学論集第11号 p.9-16	本研究は、保育士としての成長を保育士自身がどのように捉え、またその成長においてどんなことが重要だと考えているかを明らかにすることを目的とした。現職保育士を対象に質問紙調査を行った結果、保育士として保育に臨む以前の前提条件となる事柄、保育を高める具体的な手段や条件、保育の最も中心的な子どもや保護者との関わりの三つの層から構成されることが明らかとなった。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 保育実習における学生の成長実感に関する研究－保育実習IIの振り返りの分析を通して－	共	2024年5月	日本保育学会第77回大会ポスター発表	「保育実習II」を経験した学生がどのような自身の成長実感を得ているのかを明らかにすることにより、よりよい保育実習指導へと繋げていく方策を見出すことを目的に調査を実施した。自由記述から得られた回答を計量テキスト分析を用いて分析した結果、子どもと関わることにおいて、学生なりに意図を持って援助の方法を考えたり、言葉掛けを考えたりしながら、実践したことで、子どもから良い反応をもらえたり、子どもとの関係が深まったことにより、成長実感を得ていることが明らかとなった。
2. 保育士の成長実感につながる経験－現職保育士への質問紙調査結果の分析を通して－		2016年11月	日本乳幼児教育学会 第26回大会『日本乳幼児教育学会研究発表論文集』 204-205頁	保育士が職務上でどのような経験をすることが転機となり、保育士としての成長につながるのかを明らかにすることを目的に、公立保育所の保育士を対象に実施した質問紙調査を行った。成長の転機となる出来事は保育所内での出来事にとどまらず、様々な事柄が含まれていることが示された。
3. 保育士の職能成長における転機の役割		2016年5月	日本保育学会 第69回大会『日本保育学会発表要旨集』879頁	本研究ではアイデンティティ形成においては「重要な他者」との関係性が大切な役割を果たすことが示唆されていることに注目し、保育士にとって「重要な他者」となる人は誰なのかを明らかにすることを目的とする。公立保育所の保育士を対象に質問紙調査を実施した結果、同僚の存在の大きさが示された。
4. 保育士の職能成長の捉え方－現職保育士に対する質問紙調査結果より－		2015年11月	日本乳幼児教育学会 第25回大会『日本乳幼児教育学会研究発表論文集』 124-125頁	保育士としての成長において、保育士自身がどのようなことが重要であると考えているかを明らかにすることを目的とした。公立保育所の保育士を対象に質問紙調査を実施し、子どもや保護者への実践的な関わりや専門職としての研鑽だけにとどまらず、それらを基盤とする個人の資質やプライベートでの経験を含む幅広いものであることが明らかとなった。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1. 2025年5月～現在	学校法人大阪東学園評議員
2. 2024年10月～現在	尼崎市「公立保育所のあり方懇話会」委員
3. 2023年2月	大阪市阿倍野区「コミュニティ育成事業」委託事業者選定会議 委員
4. 2023年2月	大阪市阿倍野区「新たな地域コミュニティ支援事業」委託事業者選定会議 委員
5. 2022年9月	保育イノベーショングランプリ 審査委員
6. 2017年	日本保育ソーシャルワーク学会会員
7. 2012年	日本乳幼児教育学会会員
8. 2012年	日本保育学会会員